

目先の利益だけを優先させず、 積み重ねてきた歴史や信頼関係を 大切に歩む

株式会社福澤商店 代表取締役 福澤吉晃氏

国宝・善光寺の眼前にある仲見世通り。その最北に位置する「Zawacc cafe(ザワックカフェ)」は、株式会社福澤商店3代目当主である先代が約8年前に土産物屋から業種変換を行い、現在は4代目の福澤吉晃さんが代表を引き継いでいます。大胆な変革後に継続的進化を目指し奮闘する、若き経営者の信念とは？



■自然な流れで家業に入り、代表を継承

善光寺さんにほど近いこの町で生まれ育った私は、幼い頃から土産物屋を営む両親の姿を見てきました。商売と暮らしが密接な関係にあることが当たり前だったので、自分がいずれ家業を継ぐのだろうと自然と考えるようになっていました。ですから、代表を受け継ぐことも抵抗はなく、特別な気負いもなかったように思います。

■先代とともに歩んだ18年間での収穫

県外の専門学校で製菓（和洋菓子）を学び、北海道の大手菓子製造会社に修業も兼ねて就職。そこで数年を過ごして知識や経験を得ようと思っていたのですが、父の希望もあって予定よりかなり早く帰郷し、当時両親が切り盛りしていた土産物屋を手伝い始めました。それから18年が経ちますが、その間経営者としての特別な指導はなかったものの、父の働きぶりから多くのことを学んできました。中でも一番印象に残っているのは、状況が良い時も悪い時も、当社に関わってくださるすべての方を大切にする姿です。父は、お客様はもちろん問屋や銀行などの取引業者さんと常に真摯に向き合い、感謝の心を忘れずに地道に商売を続けてきた人だと思います。



■良好な人間関係が好循環を生み出す

このところ、消費増税にくわえて円安と食品の高騰など、私たち飲食業界にとってマイナスの変化が立て続けに訪れています。当社も例外ではなく、経営状況は苦しいものがあります。それでも今は我慢の時と考え、当店を選んでくださるお客様に最良の食と空間を提供しようと努めています。さらに、立地的に観光客の多い場所ではありますが、地元の方に愛され親しまれる店としても成長を目指し、アイデアを練って形にして行かねばならないと考えています。そこで重要になるのがやはり、人と人との信頼関係です。互いを尊重し気持ちよく接することのできる良好な関係からは自然と人脈も広がりますし、それに伴って物もお金も巡るようになるからです。



■最も重視すべきは「思いやり」ある言動

商売を続けるためには目先の利益にとらわれず、先を見据えて真に価値のあるものを見極め創造する力を養うことが大切です。そのために私は、どんな場面でも相手を思いやる心を重視しています。自らの言動は何らかの形で必ず返ってきます。価値あるものを得られるか否かは他でもなく私次第だと、自分に言い聞かせています！

飲食業への転換は先代と慎重に協議したうえでの決断だったが、物販（土産物屋）とのギャップは大きい。代表就任から3年、「経営者として経験不足」と控え目に自己分析する吉晃さんは、お客様の「美味しかった！」のひと言と笑顔にパワーをもらう日々を送っている。

福澤吉晃氏（ふくざわ・よしあき）
株式会社福澤商店 代表取締役

カフェのコンセプトはモダンティーク（モダン+アンティーク）。歴史ある仲見世に心地良い変化を与えるべく、新風を吹き込もうと試行錯誤を続ける。

